

社会科授業におけるデジタル教材 「ぱんSim」の活用と可能性

愛媛大学 准教授 井上 昌善

1 令和時代における社会科授業とデジタル教材

令和時代の学校教育には、社会の創り手としての資質・能力の育成が求められる^{*1}。教科指導で育成を目指す資質・能力の中核は、「読解力」、「表現力」、「納得解を生み出す力」となる。特に、「納得解を生み出す力」の育成は、自己とは異なる意見を持つ他者の存在があって初めて可能になるといえる。このことを踏まえると**これからの社会科授業では、自己の社会問題や課題に関する意見を形成したうえで、他者との意見の違いを積極的に受け止め、みんなが納得する解決方法を考える学習活動が重視されることになる。**

デジタル教材は、子どもが問題解決に必要な複数の資料を効率的に検索・収集したり、動画や音声を活用して表現したりする学習活動の推進を可能にする。よって、**デジタル教材を活用した社会科授業では、これまでよりも子どもに抽象度が高い概念を具体的な事例に置き換えて追究させたり、他者との対話や議論のために必要となる意見を形成させたりすることがしやすくなると考えられる。**子どもの「抽象と具体の往還」に基づく思考を促し、自己の意見を形成することができる力を育成することは、前述した資質・能力を育むことにつながる。

以上のことから社会の創り手として必要な資質・能力育成を目指す社会科授業づくりをサポートしてくれるのが、デジタル教材といえる。

2 デジタル教材「ぱんSim」とは？

(1) 「ぱんSim」の概要

「ぱんSim ~パン屋さん経営大作戦~」は、パン屋さんの経営に必要な事柄について判

断をしていく帝国書院で開発中のシミュレーション教材である（帝国書院ウェブサイトにて公開中。裏表紙をご参照ください）。令和3年度版『社会科 中学生の公民』（以下、教科書）の経済単元のページに掲載されている「パン屋を起業しよう」をベースに開発されたデジタル教材であり、クエスト（「次のステップに進むための課題」）の設定など、子どもの学習意欲を高め主体的に学習に取り組ませることができ工夫が随所に施されている。また、難易度も設定することができる予定であり、子どもの実態に応じて活用することが可能となっている。

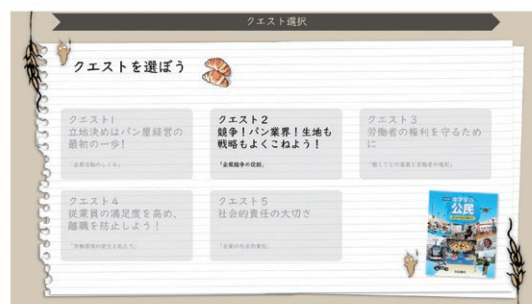


図 帝国書院ウェブサイト Teikoku LABO 「ぱんSim」クエスト画面

(2) 「ぱんSim」開発の目的

著者は教科書編集と「ぱんSim」の監修に携わっているが、開発者に「ずばり『ぱんSim』開発の目的とは？」と質問してみると、「子どもたちが楽しめる教材を作りたい!」、「経済単元で学習する内容と関連付けた教材を作りたい!」という回答であった。

前者について、子どもたちが社会科の授業で知的なおもしろさを感じるのは、学習内容を理解しているかどうかを確認したうえで、自身の判断によって社会を創っているということを実感することができた時であると考えられる。「ぱんSim」は、自己の判断によって生じる結果や社会的な影響を確認しながら、持続可能なパン屋

さんを創ることを目指す体験型のデジタル教材であるため、子どもに社会を創ることのおもしろさを実感させることができる。

後者について、「ぱんSim」では、「持続可能なパン屋の経営の在り方」が教材のテーマとして設定されており、経済単元の内容と関連付けて学習活動を展開できる。これにより、子どもは見通しを持って学習に取り組めるため、学習に対する意味を見出すことが可能となる。

(3) 「ぱんSim」の活用を通して期待できる学習効果

「ぱんSim」の活用によって、次のような学習効果が期待できる。

- ①知識の習得と学習意欲の向上
- ②社会の創り手としての意識形成
- ③公正に判断する力の育成

①について、前述のように教科書の内容と連動したクエストが設定される予定である。これに挑戦しクリアする経験を重ねることによって、**知識の習得とともに学習意欲を高める**ことができる。

②について、経営者として判断したことによって生じる結果をとらえさせることを通じて、**自己の判断が社会に影響を与えることに気付け、社会の創り手としての意識を形成**することができる。

③について、「ぱんSim」は、ビジネスやマネジメントのスキルを応用し社会課題の解決と収益の確保を両立させようとするソーシャル・アントレプレナーシップの視点を踏まえた教材である。子どもには、単なる「お金もうけ」ではなく、労働者の権利保障や食品ロスなどの社会課題に対応するための方法を踏まえて持続可能な企業の在り方を判断することが要求される。社会課題の解決と収益の確保を両立させるための方法を考えることによって、**公正に判断する力の育成**が期待できる。

3 深い学びを実現するための指導のポイント

社会科は、社会問題や課題を直接取り扱うことができる教科であり、この教科の特性を踏まえると「社会問題や課題の解決の在り方について公正に判断することができるようになること」を指標として、子どもの知的成長を見取っていく必要がある。つまり、**子どもの社会事象に対する判断に着目した指導と評価の一体化を推進することが重要**になる。

実際の「ぱんSim」を活用した授業を想定すると、子どもがクエストをクリアできたかどうかの確認だけで終わってしまうことが予想される。深い学びを実現するために、教師には子どもの社会的な判断の質を高め精緻化する指導が

表 指導のポイントと指導方法の具体事例

(著者作成)

指導のポイント	指導方法の具体事例（問いの事例） （令和3年度版『社会科 中学生の公民』『パン屋を起業しよう⑥ ～長時間労働を減らしたい！～』（労働者の権利を巡る課題：労働環境の整備）に基づく事例）
I. 現代社会の見方・考え方を働かせる発問を設定すること。 →主に公正、分業などに基づく問いの設定	<ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、今いる労働者の中で、誰にどのような役割を担ってもらおうと考えるか。なぜ、そのように判断したか。 ・あなたは、多様な人材を雇用するために、どのような求人情報をどのように発信するか。また、労働者の雇用形態について、どのような形態にしようと考えているか。なぜ、そのように判断したのか。
II. 既習事項や実社会の事象と比較・関連付けて考察させること。 →主に政治単元などの内容との関連付け	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の社会では、労働環境の整備を目指してどのような法律や制度が定められているのだろうか。なぜ、育児・介護休業法が成立したのだろうか。成立の経緯や背景に着目して、その意義や目指す社会の姿を探ってみよう。 ・企業では、労働環境の整備を目指してどのような取り組みが行われているのか。なぜ、その企業ではそのような取り組みを行っているのだろうか。きっかけは何か。
III. 自己の判断を振り返らせ、再考させること。 →自己の思考プロセスの振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・どうして今回の「労働環境の整備」をテーマにしたクエストをクリアできたのか（できなかったのか）。クリアの基準はどうなっているか。 ・あなたが提案する課題解決の方法を実行することによって、一定の収益の確保はできるのか。なぜ、そのように判断できるのか。 ・あなたは課題解決の方法を考えるうえで、特に大切だと考えたことは何か。なぜ、そのように判断したのか。 ・ほかの人の考えの中で、「なるほど」と思ったことを記入しよう。それを踏まえて、課題解決の方法について再度考えてみよう。

求められる^{*2}。p.10の表は、筆者が考える「ぱんSim」活用の指導のポイントと具体的な指導方法の事例（教科書「パン屋を起業しよう⑥～長時間労働を減らしたい!～」に基づく問いの事例）をまとめたものである。

表中Ⅰについては、現代社会の見方・考え方を働かせるために、公正や分業などに着目した問いを設定する。例えば、多様な人材を雇用するための方法や雇用の形態について公正や分業の視点から判断させる指導を通じて、**より望ましい労働環境の在り方について公正に判断する力の育成を目指す**。

表中Ⅱについては、主に政治単元で学習した内容や実社会の企業の取り組みなどと比較・関連付けて考察させる場面を設定する。例えば、育児・介護休業法の改正が行われた経緯や社会的背景に着目させ考察を促すことによって、労働者の働き方を巡る問題や環境整備を推進するための方法についての理解を深め、**既存の資本主義に基づく社会のしくみを問い直す重要性に気付かせる**。また、自分自身で考えた課題解決を目指す取り組みと実社会において企業が行っている取り組みとを比較・関連付ける場面を設定することによって、**望ましい労働環境の在り方を判断するための見通しを持たせる**。このように**仮想空間における子どもの判断をリアルな世界と接続させる指導を大切にしたい**。

表中Ⅲについては、自己の判断を振り返らせ、その妥当性について検討させる。例えば、クエストをクリアすることができた理由について問うたり、「社会課題の解決と収益の確保の両立」という観点から自己の意見を振り返らせ、より望ましい課題解決の方法について他者と議論させたりする場面を設定する。このような自己の判断を振り返り、意見を再考させる指導を通じて、**他者と協働することに対する意味付けを促し、自己とは異なる考えを受け入れる姿勢や態度を育むことを目指す**。

デジタル教材の活用によって、個別最適な学び（特に、「学習の個性化」）を充実させることができる。一方で、この学びの成果を協働的な

学びへといかに接続するか、その指導の在り方が問われる^{*3}。表に示したように、**他者との関わりの中で自己の判断を振り返らせることを重視した指導を通して、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることができる**。

4 カリキュラム・マネジメントを通じた教科横断的な学びの充実

「ぱんSim」は、カリキュラム・マネジメントを通じた教科横断的な学びを充実させるポテンシャルを秘めている。例えば、売り上げを伸ばすためには、魅力ある商品そのものを開発するだけではなくお店の看板や商品ラベルのデザインも工夫する必要がある。このことに気付かせることによって、子どもは英語や美術を学ぶ意味を見出すようになる。また、文化祭などを活用した学習発表会や職場体験と関連付けて、活用することも効果的である。その際には、学校行事の実施時期と「ぱんSim」活用のタイミングを学年全体で検討するなど、年間のカリキュラムを見通した計画的な指導が必要となることに留意したい。

以上のように「ぱんSim」の活用をカリキュラムに位置付けて、授業を実践することによって、多くの子どもはマーケティングや生産管理などの経営に関連する領域について専門的に学びたいと思うようになる。公民育成を目標とする教科を担当する社会科教師だからこそ、このような教科横断的な学びをカリキュラムベースでデザインできるのではないかと。「ぱんSim」というデジタル教材の可能性を考えることは、社会科教師の魅力やおもしろさを探究することなのである。

〔注〕

- ※1 中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」2021年 p.3
- ※2 これに関連して、次の拙稿では、現代社会の見方・考え方に基づく社会科授業づくりのポイントとして問題の構造的な理解と判断の精緻化について説明している。拙稿「見方・考え方に基づく問題解決能力育成の切り口のポイント③現代社会の見方・考え方」明治図書『教育科学 社会科教育』778号 2024年 pp.16-17
- ※3 この点については、次の文献を参照されたい。奈須正裕『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版社 2021年